



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

薬学部 教授・附属薬局長

やまうらかつりの
山浦克典

検体測定室―薬局店頭で血液検査が可能に―

わが国の国民医療費は40兆円を超え、過去10年間で約1.3倍に増加しています。その中で生活習慣病に関連するものは約3割に達し、また日本人の死因の約6割を占めています(図参照)。生活習慣病の発症・重症化の予防には早期発見・早期治療と、生活習慣の改善が重要です。そこで大切なのは、定期的に健康診断や人間ドックを受けることですが、国民の3分の1は健診を受診していないのが現状です。定期健診を受けない主な理由は、「時間がない」「面倒くさい」「結果が心配」などです。そこで、2014年4月から、臨床検査技師等法の一部改正により、「検体測定室」の届出をした薬局の店頭で、利用者自身が指先から微量採血した血液を使って、簡易血液検査をすることが可能となりました。専用の針を使って米粒〜小豆程度の血液を指先から採取し、10分程度で血糖値やHbA1c^{*}、血中脂

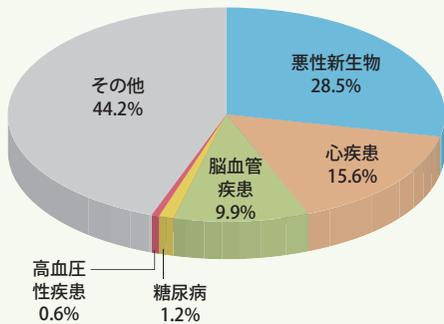
質などの検査結果が判明します。費用は1項目1000円程度で行えます。これまで、さまざまな理由で健康診断を避けていた人も、薬局の店頭で検査ができれば、都合に合わせていつでも手軽に検査を受けられるうえ、薬剤師から生活習慣や、薬の相談を受けることもできます。

れると思います。皆さんも、気軽に健康相談や健康管理をしてくれる「かかりつけ薬局」を持って、検体測定をはじめとする薬局のさまざまなサービスを利用して、生活習慣病の予防や健康維持に役立っていただけたらと思います。

まさまざまな医療機関の処方せんを受け付ける保険調剤や在宅医療など地域に密着した業務を行っています。附属薬局でも、昨年末に検体測定室の届出を済ませ、塾内外の希望者に対して検体測定サービスを実施しています。全国には5万7000店舗を超える薬局がありますが、検体測定ができる薬局は現時点で1200店舗程度です。今後このサービスが全国に普及し、生活習慣病の早期発見・早期治療につながれば、超高齢社会を迎えたわが国が抱える医療費増加問題も軽減さ

る業務を行っています。附属薬局でも、昨年末に検体測定室の届出を済ませ、塾内外の希望者に対して検体測定サービスを実施しています。全国には5万7000店舗を超える薬局がありますが、検体測定ができる薬局は現時点で1200店舗程度です。今後このサービスが全国に普及し、生活習慣病の早期発見・早期治療につながれば、超高齢社会を迎えたわが国が抱える医療費増加問題も軽減さ

死因に占める生活習慣病の割合



厚生労働省「平成23年人口動態統計」

^{*}HbA1c：糖化ヘモグロビンのこと。この値を調べることで、過去1〜2カ月間の平均的な血糖状態を知ることができます。